

纖維化學科設立迄

忠 郎

纖維化學科の増設については昨年十一月下旬(八日頃)井上校長の東京を期會に本省との交渉が好轉して此所に設立準備が兆し、其後一期に決定的なものに進んで来たのであつて、誠に本邦にとり、新事業界にとり、亦本校にとつて誠に慶賀すべき事である。

1. 増設迄の経過

本校は創設以來纖維化學方面に井上柳樾教授(現校長)を、蠶桑化學方面に川瀬徳次郎教授(元東大教授)を擁して斯界の化學方面に重要な地位を踏み、亦學校としての一大重要なポイントとして居つたのである。之と同時に朝比奈清教授(現日清レヨン會社技師長、日清紡績科學研究所長)を工業化學に迎へて人造絹絲製造に於ける本邦の端緒を開き、その門下に人造絹絲の優秀な技術者を多くみだつたのである。

2. 進むべき方針に對する私見

新設纖維化學科は種々なる方面から見て廣範圍の使命のあるは井上校長の記事論になるかも知れないが、之は多少私の持論に於ける事である。固より各種纖維の化學的方面を學生に専攻せしむべきなれど種々の角度や學校の特長等から見て自ら重んずべき所があるべきである。本校の如きは其の色彩は蠶桑化學、人造、合成纖維製造化學、色染仕上化學の三分野

Table with columns: 著者名 (Author Name), 報文數 (Number of Articles), 發表期 (Publication Date). Lists authors like 須田 圭二, 川瀬 徳次郎, 井上 柳樾, etc., and their respective article counts and dates.

尚井上校長、故金子教授が之等學會誌以外に通俗雜誌に發表されたものは實に枚舉に暇なき状態に於て此所には省略す。而して井上、金子兩氏共に人造絹絲、ステープルファイバー製造に關する著書や講演記事を出された事は一方に於て奇異であつて亦得意感と云はざるを得ない。井上校長の更生絹絲對天然絹絲、故金子教授の蛋白人造絹絲對天然絹絲、故金子教授

第廿七回卒業證書授與式

三月十五日午前十一時より母校講堂に於て第廿七回卒業證書授與式が舉行され、式は宮城逸輝、英靈に感謝、皇軍將兵武運長久賦壽に始まり、各科卒業、修業者氏名呼稱し、各科總代に學校長より夫々證書を授與し、式辭として有益なる錢けの辭を與へ、引續いて文部大臣祝辭（大瀧教授代讀）、來賓祝辭として富田長野縣知事（西村縣長代讀）、伊藤上田市市長（木内助代讀）、中等校代表西村小縣黨業學校長、實業家代表成澤一、千曲會代表八木誠政氏等の盛世訓を交へた祝辭があり、引續き祝電披露、在校生總代榎内明君（蠶二）の送辭に對して卒業生總代村本才登君（紡）の答辭があり、最後に校歌を合唱して此の意義ある式典を閉じた。それより審判とお茶の懇親會が會があつた。

式辭

上田蠶絲專門學校長 井上柳梧

本日茲ニ當校第二十七回卒業證書授與式ヲ舉行スルニ當リ文部大臣閣下ヨリ祝辭ヲ賜ハリ且ツ朝野貴賓各位ノ黃臨ヲ辱ツシタルハ洵ニ本校ノ光榮ニシテ深ク感謝スルトコロナリ。
本日卒業証ニ修業證書授與ノ光榮ヲ擔ヘルモノハ
蠶 二九名
製 二六名
紡 二六名
選 八名
製絲教養養成科 一六名
合計 一〇五名

第二十七回卒業修業者表

（五十音順）

- ◎養蠶科(第二十七回・二九名)
 - 秋山 幸夫(長野) 足立 光男(長野)
 - 伊藤 嘉三郎(長野) 今井 省吾(長野)
 - 小川 泰弘(長野) 萩原 孝三(長野)
 - 加子 三郎(愛知) 河田 泰(愛知)
 - 神崎 聖徳(宮城) 北村元三郎(長野)
 - 楠八重(群馬) 小山 富治(長野)
 - 佐藤 三夫(栃木) 堀川 俊明(長野)
 - 田中 英一(新潟) 春日(愛知)
 - 濱谷 櫻(島根) 竹下 清(山梨)
 - 丸山 長久(長野) 福田 六郎(栃木)
 - 松田 榮(長野) 前田 眞二(愛知)
 - 丸山 喜久(長野) 宮澤 久雄(長野)
 - 村澤 巧(群馬) 森本 彰(京都)
 - 柳澤 一郎(福岡)
- ◎選科(四名)
 - 大西 三郎(富山) 工藤 榮次(長野)
 - 小泉 恭平(群馬) 中里 道周(栃木)
- ◎製絲科(第二十七回・二六名)
 - 飯田 國藏(千葉) 海野 輝男(茨城)
 - 岡田 廣太(群馬) 小田巳年(群馬)
 - 狩野 宏平(静岡) 河本悦太郎(長野)
 - 姜 鎮 洪(朝鮮) 岸野 英記(大分)
 - 小林 剛(長野) 税田 廣喜(福岡)
 - 笹川 嘉隆(石川) 高橋 一郎(福岡)
 - 竹内 五郎(長野) 田代 毅(栃木)
 - 田中 信重(長野) 高尾三三治(佐賀)

製絲教養養成科(第八回・二六名)

- 赤岡 綾子(長野) 上原 一代(長野)
- 上原 子(長野) 笠井 里志(長野)
- 藤澤 クニ(長野) 小泉 ムラ(長野)
- 佐藤 澄子(長野) 正村江津子(長野)
- 田村三三子(長野) 田中 寛(長野)
- 松村しほ子(長野) 宮崎美恵子(長野)
- 村尾はつ江(長野) 柳澤たけじ(長野)
- 山邊 律子(長野) 横澤 時子(長野)

絹紡織科(第十九回・二六名)

- 相澤 清正(長野) 相原忠一郎(京都)
- 伊藤 正義(長野) 井上 晴晋(長野)
- 小幡 昇(静岡) 川合 信夫(静岡)
- 楠澤 和英(長野) 川合 久午(長野)
- 金子 平夫(長野) 神川 至(長野)
- 小林 憲三(長野) 白川 孝治(長野)
- 東海林誠治(新潟) 高岡 米治(奈良)
- 龍谷 精(東京) 田口 玲(長野)
- 田路 治男(兵庫) 寺崎 隆夫(長野)
- 中村登一郎(愛知) 吐師 聰(群馬)
- 林 正信(富山) 三宅 太(宮崎)
- 原宮 丈夫(長野) 村本 才登(山口)
- 横山 英人(富山) 渡邊 亮(千葉)

諸子ハ入学以來能ク校規ヲ守リ校則ニ遵ヒ精勵努力奮闘ノ功ヲ積ミタル結果今日ノ榮冠ヲ得ルニ到レルモノニシテ諸子ノ父兄ト共ニ欣喜ニ堪ヘサル處ナリ。願レバ支那事變勃發シテ茲ニ第四年ヲ迎ヘ今や我國ハ陛下ノ御統帥ト陸海將士ノ奮戦力開ニヨリ到底ハ處連戦連勝多シク戰果ヲ收メタリト雖尙も戦禍止ムニ至ラズ時ニ耐難戰場ヲ蔽ヒ劍光ニ寒キアリ忠勇ナリ我將士ハ強敵ノ掃蕩ニ力盡シ内ニ於テハ學國一致シテ銃後ヲ固ク腰リ斯クシテ支那新秩序ノ確立東洋平和招來等聖戰ノ目的達成ニ努メツ、アリ。此時ニ當リ卒業生諸子ハ學業ヲ卒ヘテ活社會ニ出テントス。諸子ハ深ク優渥ナル恩ヲ奉戴シ國家ノ鴻恩ト陸海軍將士ノ決死奮闘トニ對シ深甚ノ感謝ヲ捧ケ國家非常時局ニ於ケル卒業生トシテ特ニ奉公ノ誠ヲ致シ國策ニ治ヒ各其ノ業務ニ奮勵努力スベキナリ。今や歐洲ハ戰亂ノ巷ト化シ混沌トシテ複雑多岐ヲ極メ國際ノ不安ハ益々募リツ、アリ各國ハ競ツテ軍備ノ充實擴充ニ狂大シツ、アリ此ノ如キ世界ノ情勢ヲ顧ル時、時局ノ重大性ハ日一日ト増大シツ、アリ、此ノ時ニ當リテ諸子ハ校門ヲ出ントス諸子ハ非常ナル決心ヲ以テ進ンデ此難局ニ當リ是レヲ克服スルノ覺悟ナカルヘカラス諸子ハ宜シク正道ニ立脚シ思想ヲ堅實ニシ禮節ヲ重シ謙讓ノ徳ヲ守リ以テ人格向上ニ努力セサルヘカラス。諸子ガ本校ニ於テ修得シタル學術ハ國家經濟上現下ニ於ケル事變ニ對處スル國家上最重要ナルモノナリ諸子ハ坂學中修得シタル知識ヲ基礎トシ益々研鑽ヲ重ね創作性ノ發揮ニ努メ以テ國家ノ開發ニ資セサルヘカラス之レ實ニ國家力諸子ヲ養成シタル鴻恩ニ酬ニル所以ナリ。茲ニ皇紀二千六百年ヲ迎ヘ我國ハ將ニ雄圖ノ一新ヲ期シツツアルノ任愈々重大ニシテ切實ナル時ニ當リ一億一心誰カ異當ノ感激ニ奮勵セサルモノアラバ此時ニ當リ諸子學ヲ卒ヘテ實務ニ就カントス諸子ハ負荷ノ重キニ願ミ自奮自勵氣宇ヲ闊大ニシ識見ヲ高尚ニシ愈々徳ニ進ミ業ヲ修メ品性器能ノ玉成ニ力ヲ効スベキナリ。北アルプス連山ハ白雪皚々トシテ西天ニ聳ル諸子ハ高潔不動ノ精神ヲ示シ曲川ハ清流滔々トシテ千古休マズ諸子ニ不斷ノ活動ヲ教ヘ嗟呼諸子ト自校門ヲ去ラントス諸子庶クハ母校トシテ大ニ教訓ヲ終生忘レザラン事ヲ茲ニ諸子ガ社會ヘノ發程ニ當リ前途ヲ祝福シ一言ヲ呈シテ儻トナシ成功ヲ祈ル。

前農林省 蠶業課長 明石弘著 新刊好評

代近蠶絲業發達史

菊判洋布面入六三八頁 定價五圓五〇錢 送料三三錢

我が國の蠶絲業は明治中葉以後文字通り飛躍的發展を遂げ、東亞の斯界に君臨し、世界の市場に覇を唱ふるに至つた。然し其の間幾多の波瀾が繰返され、研鑽の辛苦が積まれて来た。茲を以て、我が蠶絲業を正しく認識し、堅實なる運轉を企圖し、或は將來の發展を圖らんとするものは、須らく先づ其の推移の跡を究むべきで、當に本書こそ之が無二の典據である。

即ち本書は其全生涯を本邦蠶絲界に委ね、具に其の歴史を体験して、あらゆる事實を通過せられる著者が、斯界の爲に寄せられたる豐富の記録、明治中葉以後、近時における蠶絲業の浮沈、關係者の擡まざる努力、學者の研究當局の施設、輿論の動向等々、蠶絲業發達の道程と之に關する政策を最も如實に描き出され、空前不應の快著である。

蠶絲業關係の各位には、是非御一讀を切望して止まない。

栽桑學通論

上田蠶專教授、農學博士 遠藤保太郎著

菊判洋布五〇四頁、挿畫七二圖 定價三圓八十錢、送料三十三錢

現下即應した最も進歩的な栽桑栽培の學理とその應用を遺憾なく解説された斯界の至寶版。

土壤學通論

岐阜高等農林學校教授 松野孝雄著

菊判洋布三四〇頁、挿畫九三圖 定價三圓五十錢、送料二十一錢

最近躍進的發達を遂げた土壤學に關する幾多の學說を捉へ間然する處なく詳述された最も新しい指導書。

乾燥論

東京蠶專教授 鈴木三郎著 定價 六〇〇 送料 三三

乾燥作用並に乾燥装置の基礎的概念の解説、生繭の取扱より繭に至る原料繭保全の全工程に亘り刺す處なく説いてゐる。

養繭論

上田蠶專助教授 萩原清治著 定價 三〇〇 送料 三三

繭繭に必要なる諸項目、繭の解舒、養繭前處理法、養繭法性質を異にする繭の養繭法、外。

加納 銳著 蠶種製造實務要覽 價一・二五 送料一六

高瀬 軍治著 箱飼養蠶(一齡一回給) 價一・六〇 送料一六

金崎 眞英著 上簇改良論と實際 價一・五〇 送料一四

石川金太郎著 蠶體病理學 價四・八〇 送料三三

鶴田 定平著 蠶桑樹品種論 價五・〇〇 送料三三

發兌 振替東京一三一九〇 明文堂

著吉房川中 授教蠶東 法絲製 價一・一〇 送料九

星に祈る

一戦の野にある友人 達をおもひつゝ

出野 正雄

かつての日、あのホヱラの美しい學園に...

君が武運の永久ならんことを祈り、僕達の到底想像さへも出来ない様な御苦勞に對しては千萬の言葉を盡してお禮を申し上げたい。

君はありがたき故郷の山を想ひ、今なほ御健在の御両親の深き慈愛に勵まされつつ、戦の野に立ちて縦横に駆け廻る...

新年おめでたうございます。すみ分お久しぶりでしたな。茅屋で一宿して戴いた御縁で頗るお懐しく存じます。

小感、愚語

一蕉

隨筆は成人の書くものだ、と云ふ。少くとも讀むに堪へる隨筆は成人でなくては書けないものと私も思ふ。

昨年の晦日、歳取りの膳についた拙宅の話、肴を食へたから僕は何歳、お前は何歳と云ふ話の末『それならば家内中の者の歳を合計せたら何歳になる？』と云ふ質問を出して見た。

皇紀二千六百十年と人々は特別に意義ありげに口にし、ジャーナリズムも筆にすべし。然し實に「二六〇〇年」と云ふものに人各々に例へる内容が異つて居る...

然し斯ふした何でもないことに何かの感慨を含めて考へるところに年の瀬の面白さがあり、一年、一年と云ふところに一つ一つの区切りを考へ出した昔、昔から人の性の面白さを、話に開く赤道直下の季節的變化のない生活の味氣なさと云ふものに比較して考へて見たのであつた。

旅

一旅

私は旅の好きな男ではない。私は甲地から乙地への旅の場合に途中下車して名所見物して行くやうな餘裕と風流とを持つた男である。

一時間前に發車する管の「興亜」が一時間半遅れたためにこの急行列車を豫定した旅客の大部分が「ひかり」に乗り替へたためであるが、夫れ等の人は満員の「ひかり」に幸替することによつてどんな利益を得たであらうか！

「ひかり」が京城の附近で事故を起し後から走つて居た「興亜」が旅客の誰も知らないままに却つて三十分早く釜山に着いて居て、お蔭で關釜連絡船のよい座席は「興亜」の御客に全部占領されて了つたのである。

私共の周囲に於ては環境の悪いために仕事に熱中出来ず従つて気持ちも粗雑になり、更に一層悪い環境に轉つて行くか！

良貨と悪貨と

一良貨と悪貨と

頃目サルト田舎に旅した時に受取る刺鏡の悉くが觸るゝもの厭な感じのする程汚れた千切れた紙幣ばかりであつたのに一驚したのであるが、考へて見れば理窟のないことでは無いやうである。

結局同じ紙幣でも田舎に行けば行くほど汚れたからと云つて回収される機會は少くなるであらうし、そして少しでも餘計に汚れたものは綺麗なものに比べて誰でも早く手離すことを考へるであらうし、従つて綺麗な紙幣が二回位人手に渡る間に汚れた紙幣も五回も六回も手から手に渡されることとなる結果だらうと思ふ。

問題がこれだけならば良い。例へば滿洲ならば中央銀行の古紙幣回收の方法に就て多少の考慮を拂つて貰えば良いのであるが、大變な田舎とか一或は甚だ悪い環境に仕事をせねばならなかつた人間の運命までがこの古紙幣のやうな運命に晒されるものとしたら何うであらうか。

私共の周囲に於ては環境の悪いために仕事に熱中出来ず従つて気持ちも粗雑になり、更に一層悪い環境に轉つて行くか！

〇人

〇人

私は急行列車「ひかり」に乗る心算で先發の友人に某驛で下車して待つやうに電報を打つたのに却つて不注意にも普通は「ひかり」よりも一時間前に發車する管の急行列車「興亜」——その日は事故のために一時間半遅れて發車した。だが「興亜」の客室は殆どガラ空きて私の乗つた二等車は三、四人しか客が居らず、寢臺車拂底の長旅の困難なその頃の珍らしくも悠々と納まりかえつて樂な旅が出来たのは近頃での快い想ひ出であつた。

一時間前に發車する管の「興亜」が一時間半遅れたためにこの急行列車を豫定した旅客の大部分が「ひかり」に乗り替へたためであるが、夫れ等の人は満員の「ひかり」に幸替することによつてどんな利益を得たであらうか！

「ひかり」が京城の附近で事故を起し後から走つて居た「興亜」が旅客の誰も知らないままに却つて三十分早く釜山に着いて居て、お蔭で關釜連絡船のよい座席は「興亜」の御客に全部占領されて了つたのである。

私共の周囲に於ては環境の悪いために仕事に熱中出来ず従つて気持ちも粗雑になり、更に一層悪い環境に轉つて行くか！

母校ニユース

針塚先生講演 滿洲北支方面に旅行せられた針塚先生は、二月十六日第四時間目、辯論部の招待により第四教室に於て「滿洲の實状」と題されて、滿洲の飛躍的進歩を示した現状や、又繊維方面、さしては母校卒業生の活躍せらるる、梓蠶業につき述べられ、最後に大陸人に對する我々の心構へにつき諄々と説かれし結ばれたその間一時間に過ぎなかつたが、聴講者一同感銘深く退場した。

二月十六日 嫩葉給與に依つて生ずる蠶兒の軟化病状と大豆蛋白添加の之が豫防 當番 戸塚 一

二月十三日 英文法に就て 當番 山崎 菅 録 一、加里及び石灰の葉質に及ぼす影響 講師 須田 圭 二

二月十三日 柳澤延房教授 一、セリン定着法の一考察 小松 忠一郎 一、數學と自然科學の關係 原田 親 雄



大平敏彦教授



柳澤延房教授

紀元二千六百年紀念

今事變四年に當り益々粉骨碎身の誠を效すべき意義深い紀元二千六百年の紀念節を迎え、宮城陸軍中學校内に於て、國歌奉唱、宮城陸軍中學校長より事變下に迎へた紀元二千六百年に處する學生に對しての訓辭あり、厳肅裡に式を閉じた。

二月十日 岡谷製絲聯合會主催、於岡谷 全 長野縣製絲聯合會主催、於松本市役所會堂 東海千曲會總會席上、於名古屋 全 前橋市商工會議所主催、於前橋市役所會堂

二月十日 岡谷製絲聯合會主催、於岡谷 全 長野縣製絲聯合會主催、於松本市役所會堂 東海千曲會總會席上、於名古屋 全 前橋市商工會議所主催、於前橋市役所會堂

二月十日 岡谷製絲聯合會主催、於岡谷 全 長野縣製絲聯合會主催、於松本市役所會堂 東海千曲會總會席上、於名古屋 全 前橋市商工會議所主催、於前橋市役所會堂

一、二三の醫學的常識に就て 藤利 一 一、生絲の強さに就ての一考察 窪田 潤 紀元二千六百年紀念 興亞の聖職たる今事變四年に當り益々粉骨碎身の誠を效すべき意義深い紀元二千六百年の紀念節を迎え、宮城陸軍中學校内に於て、國歌奉唱、宮城陸軍中學校長より事變下に迎へた紀元二千六百年に處する學生に對しての訓辭あり、厳肅裡に式を閉じた。

製絲科三年卒業論文題目

一、産繭處理状況に就て 小泉 教授 一、蠶兒抵抗力試驗に就て 小泉 教授 一、蠶兒野食一元化問題に就て 小泉 教授 一、蠶兒体内に於ける胃腸時代の保護に就て 小泉 教授 一、大明、中卵、小卵より生じた蠶兒蠶繭の測定學的分解 佐藤春 教授

一、落花生に皮に關する研究(應召) 小泉 教授 一、生絲の化學處理に依る練減の研究 (與) 教授 一、アルコールの繭層に對する浸潤速度と繭質との關係 (荻原助 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

製絲科三年卒業論文題目

一、産繭處理状況に就て 小泉 教授 一、蠶兒抵抗力試驗に就て 小泉 教授 一、蠶兒野食一元化問題に就て 小泉 教授 一、蠶兒体内に於ける胃腸時代の保護に就て 小泉 教授 一、大明、中卵、小卵より生じた蠶兒蠶繭の測定學的分解 佐藤春 教授

一、落花生に皮に關する研究(應召) 小泉 教授 一、生絲の化學處理に依る練減の研究 (與) 教授 一、アルコールの繭層に對する浸潤速度と繭質との關係 (荻原助 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

製絲科三年卒業論文題目

一、産繭處理状況に就て 小泉 教授 一、蠶兒抵抗力試驗に就て 小泉 教授 一、蠶兒野食一元化問題に就て 小泉 教授 一、蠶兒体内に於ける胃腸時代の保護に就て 小泉 教授 一、大明、中卵、小卵より生じた蠶兒蠶繭の測定學的分解 佐藤春 教授

一、落花生に皮に關する研究(應召) 小泉 教授 一、生絲の化學處理に依る練減の研究 (與) 教授 一、アルコールの繭層に對する浸潤速度と繭質との關係 (荻原助 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

一、生絲の屈折率に關する研究 (窪田助 教授) 一、生絲の強力伸度に影響を及ぼす諸原因の探究(窪田助 教授) (與) 教授 一、生絲ラウヂネス生成に關する研究 (奧) 教授 一、紡織纖維の顯微鏡的検査 (荻原助 教授) 一、解舒劑の研究 (古谷 教授) 一、品種別に依る生絲の染色性 (荻原助 教授) 一、乾燥程度に依る練減力の研究 (荻原助 教授) 一、定尺巻取裝置の基礎的研究 (大瀧 教授) 一、絲價變動の研究 (小泉 教授) 一、營業製絲と組合製絲の經濟的比較 (荻原助 教授) 一、ピュロレット反應に依る解舒調査 (小泉 教授)

野口教授滿支に出張

新中央政府誕生して愈々日滿支提携の緊密化せんとする時、吾が絹紡織料の野口新太郎教授は滿支の蠶絲業及織維工業視察の用務を帯びて出張渡支する豫定である。近日中に文部省の許可が出る筈であるが、其の豫定日程は大略左の通りである。然し渡支後の時日には多少の相違を生ずるかも知れない

滿支視察旅行豫定日程

四月十二日上田發、一七長崎出帆、一八二五上海杭州蘇州無錫、二七南京、二九上海出帆、五、一青島、三濟南、五天津、七北京、一〇張家口、一三奉天、一五新京、一七安東二〇日歸校

本會記事

本會日誌

二月八日 伊藤友次郎氏(初)急逝せらる。電報にて弔意を表す。二月十日 鈴木鐵次郎氏(絲四)逝去せらる。電報にて弔意を表す。二月十三日 深美政人氏(外三名)の御遺族有志形慰金贈呈す。三月五日 千曲時報臨時休刊届提出す。三月九日 新入會員歡迎會開催す。三月十二日 入學試験官出張に付關係支會長へ依頼す。三月十三日 植村滿義氏(蠶廿四)逝去せらる。弔電を發す。三月二十七日 書記白倉でん氏家事都合に依り退職せらる。其の後任として宮原トク氏就任す。

支會役員改選

三月十日沼津市に於て静岡千曲會總會開催、左の通り役員改選せり。支會長(留任) 戸倉 愨兵衛 副支會長(留任) 岸 勝 幹事 青木 勝 大幹事 大木 正一 代議員 大木 正一 大木 正一

基本金及向上資金寄附

本會の向上發展を期せむため左の通り寄附せらる。洵に感謝の至りに不申、本紙上を以て受納證に替へ厚く御禮申上ぐる次第なり。金貳拾圓也 本會基本金中へ 寄附者 瀧澤 七郎氏(蠶廿五) 金拾圓也 本會向上資金中へ 寄附者 中村 吉男氏(絲五) 金五圓也(蠶五) 本會向上資金中へ 寄附者 香山 清和氏(初) 三

故岡宮伍長遺族より寄附

昭和十三年九月支那河南省濟源縣後揚山北方高地附近の戰闘に於て名譽の戦死を遂げられたる故岡宮伍長夫氏御遺族より左記の通り寄附せらる。御厚志に對し厚く御禮申上ぐる次第なり。寄附者 故岡宮伍長殿父岡宮常藏殿 金拾五圓也

内田先生記念品贈呈 資金募集清算報告

収入 二八七圓五〇錢 有志贈出金總額 支出 三五圓二〇錢 内 贈 一〇圓七三錢 雜集 通 信 費 費 費 收支差引贈呈金額 二五二圓三〇錢 (右金額二月上旬郵送)

内田先生よりの禮狀

謹啓 寒氣厳しく御座候處益々御清榮に被爲渉奉大賀候此度は小生多賀高等工業學校に轉任に際し記念品御惠の御企てに預り多額の御惠を被り御芳情洵に難有深く奉感謝候上田在職中は確々としてより等々なす處なく各位の甚大なる御庇顧に至り罷在候其上に如此御手厚く御配慮を承りし感謝の外無之候親しく拜眉の上御厚禮申上度候。共遠隔の地故不取敢に私翰挨拶申上候。 昭和三十五年二月十日 内 田 浩 千曲會有志各位殿

新入會員歡迎會

本會では三月九日午後三時より千曲會館階上に於て卒業式を近日中に控へた卒業生の入會歡迎會を開いた。先づ浦生理事長より開會挨拶並に歡迎の辭があり次いで倉澤理事が本會庶務、會則に就て、須田參事が本會會計に就て、須田參事が本會動靜に就て、小松參事が千曲時報に就て、山口參事が蠶絲學雜誌に就て、夫々本會機構の説明をなし、同時に今後の努力を要請し、尙蠶絲科學研究會の山崎氏が日本蠶絲總覽に就て述べ、次いで來會された會員の小林勲氏が有益な處世訓を垂れ、新入會員は新しい希望に力強さを感ぜ、代表で發着科卒業の小山富治君が謝辭を述べ、林理事の閉辭があつて最後に浦生理事長の發辭にて萬歳を三唱して六時頃散會した。尙會員、永田平、北島正生、茅野功、平尾孝平氏等が來會された。

會費領收 (三月十五日)

昭和十四年度會費金四圓也 (現) 在 安中 勳(蠶九) 尾藤 省三(蠶二〇) 中島 茂(蠶二) 矢島 良雄(蠶二〇) 植村 忠義(蠶四) 内苑 駿吉(蠶二〇) 尾崎 利雄(蠶二〇) 池内 眞吾(蠶二〇) 佐藤 克治(蠶二〇) 入佐 一郎(蠶三) 半田 義雄(蠶三) 關 興(蠶三) 奥村 忠治(蠶三) 植村 滿義(蠶三) 本居 高行(蠶三) 重田 正喜(蠶三) 鈴木 孫市(蠶四) 堀 忠太郎(蠶九) 小山 俊吾(蠶三) 堀 孟(蠶三) 笠原 豊(蠶三) 柳澤 榮一(蠶三) 荒木 慎藏(蠶三) 一之瀬 茂(蠶三) 岩本 賢次(蠶三) 池田 爲雄(蠶三) 和田 幸一(蠶三) 内海 弘(蠶三) 高橋重一郎(蠶三) 小林 相模(蠶三) 磯部 鐵雄(蠶三) 井上 正人(蠶三) 石原 二人(蠶三) 植森 定男(蠶三) 香山 清和(蠶三) 小林 尙一(紡八) 北澤 琢郎(紡三) 鈴木 尙一(紡三) 岩崎 正典(紡二) 鈴木 一郎(紡三) 昭和十四年度准會費金八拾錢 磯村 敏子(教五) 關 かほる(教五) 昭和十三年度准會費 若林のち子(教三) 關 かほる(教五) 北澤貴代子(教五) 未納會費納入者 金四圓也 (昭和七年度分) 水野 敏夫(蠶二〇) (昭和十一年度分) 橋本 嵩(絲三) 終身會費完納者 菅原 勇治(蠶一) 小泉 恭平(蠶七) 大西 三郎(蠶七) 入會金納入者 完納者 池内 眞吾(蠶九) 關 博夫(蠶三) 小泉 恭平(蠶三) 大西 三郎(蠶三) 高橋 一郎(絲三) 税田 廣喜(絲三) 海野 輝男(絲三) 浦野 育郎(絲三) 野島 忠義(絲三) 岡田 廣太(絲三) 小幡 昇(紡九) 高岡 米治(紡九) 金五圓也 都筑 正一(蠶五) 昭和十五年年度會費金四圓也 池内 眞吾(蠶二〇) 關 博夫(蠶三) 海野 輝男(絲三) 浦野 育郎(絲三) 野島 忠義(絲三) 浦野 育郎(絲三)

針塚長太郎先生謝恩 記念資金申込報告

針塚長太郎先生謝恩 第三回 記念資金申込報告 三月五日 日現在 金五圓也(追加分) 中津信一郎 累計金壹萬〇五百五拾七圓也

叙任辭令

現職員之部 長野縣上田中學校教諭、柳澤 延房 任上田蠶絲專門學校教諭、彼高等官六等 十級停下賜(三月八日) 東京帝國大學助手 大平 敏彦 任上田蠶絲專門學校教諭、彼高等官六等 九級停下賜 從七位勳八等 目崎 三郎 敘勳七等授瑞寶章(以上三月十三日) 給三級停 助教授 窪田 潤 給三級停 小林 尙一 給六級停(三月三十日) 卒業生之部 地方農林技師 桑田 庄七 十級停(十二月二十六日) 北澤 周一 敘從七位(十四年十月二日) 地方農林技師 小平 光雄 九級停下賜(十四年十二月二十六日) 正六位勳六等 兒玉 忠雄 敘從五位(十四年十月十六日) 從五位勳六等 矢澤茂登一 任朝鮮總督府道技師、彼高等官三等、五 級停下賜、慶尙北道在勤ヲ命ス 矢澤茂登一 願ニ依り本職ヲ免ス(以上二月十四日) 朝鮮産業技師 矢澤茂登一 五級停下賜 同 矢澤茂登一 九級停下賜(以上十四年十二月二十八日) 尾見 祐八 公立實業學校教諭 小松原徳治 兼職ヲ免ス(二月二十八日) 朝鮮産業技師 北澤 茂 京畿道産業技師ニ補ス 尾見 祐八 江原道産業技師ニ補ス(以上二月七日) 從五位勳六等 本間 直人 敘正五位(十四年十一月一日)

本校辭令

地方農林技師 中澤 薫 九級停下賜 願ニ依り本職ヲ免ス(三月四日) 正八位勳七等 倉元 隆太 正八位勳六等 鈴木 正悟 敘從七位(十四年十一月一日) 地方農林技師 水谷 郷一 十一級停下賜(十四年十二月三十一日) 朝鮮總督府農事試驗場技師、彼高等官 七等(三月二十七日) 任朝鮮總督府農事試驗場技師、彼高等官 七等(三月二十七日)

三月號休刊に就て

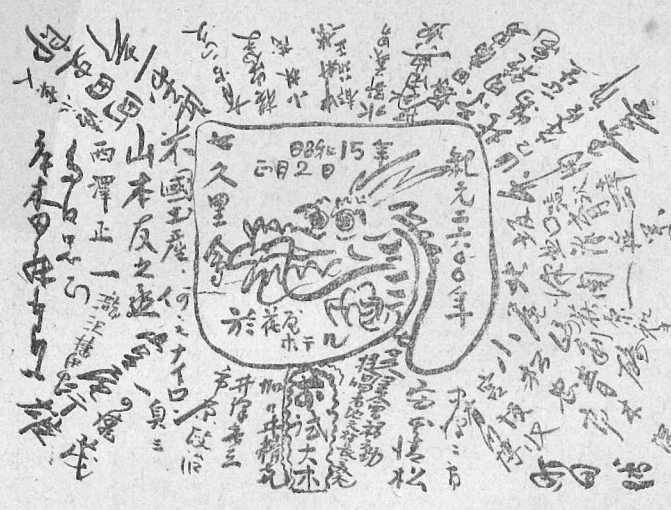
突然に本紙三月號を休刊しました事に就て御詫び致します。紙不足に加へて印刷費等の急騰に依つて本會舊年度の豫算は三月號發刊費に充たず且原稿も僅少でしたので、寧ろ三、四頁位の貧弱のものを出すよりはと思ひ、前言無しに休刊致しました次第、何卒悪しからず御諒承願ひます。(編輯係)

支會通信

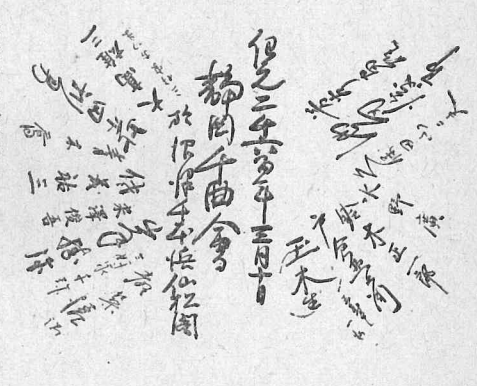
七久里會雜記

S. Y. 生

私は場に没りながら斯う考へた。年は明けても相變らず世は非常時なんだ。時報にて廣告しても一體何の位の人々が集まってくるのだらう。尤も集める方も通



なつた。そうだ、今年は光輝ある二千六百年だ。新世紀第一の年ののはじめだ。意氣衝天の辰年ではないか。一九三〇年



名代の仙松閣。紀元二千六百の彌生初の旬日は、皇國の陸軍の奉天戰勝記念日なり。

折しも到る雁の音信。一戰場歸還勇士宮崎氏よりの手紙を紹介致します。千曲會支會員の諸兄へ

發展を祈る。渡瀧に際しては格別なる御配慮を賜り感謝に耐へず。各位に宜しく。

安筑支會便り。吾等が常に敬慕してある針塚先生が東築摩郡農業青年研究會に講師として御來



五時より淺間温泉小柳の湯に吾が支會の總會を開いた。何時も變らぬ饗樂とした

役員は前年通り再選され、會則は一、二度更したのみで一瀉千里に決定した。終つて懇親會に移る。淺間の美妓の酒間

一宮通信。みすい會の創始者であり我箱紡織科名古屋進出の基礎を固めた恩人大谷隼人氏

全くの御榮轉である。吾々は三月十三日一宮市三樂に於てさゝやかながらも心



山東から 出野 生

漂然と山東に流れて来ました。杵蠶の調査と言ふ譯でもないのですが、にはかに思ひついで大連から船に乗りました。

山形縣蠶桑村大火 窓生の美譽

去る三月廿日私の前任地であつた山形縣の蠶桑村に大火があつた事を知つて其處の同窓生丸山さんに就いて心配してな

「自分の家の焼けるのを顧みず消火に奮闘したのみならず、實母と雇人の焼死を救ふべく懸命の努力をしたが、全滅から同村を救つて防衛團長の丸山一太郎

★ 戦地通信 ★

應召各位の母校に寄せたる通信に對しては、後同窓諸氏の感激大なるものは、編纂者の認め且つ、應召各位に感謝致す

梅崎正道君より

小生一昨年〇月製絲科一年に在學中召集に接し皆様の御期待を双肩に擔つて勇躍出征し、昨秋に於て、同窓生に於て

通信者芳名

- 一月 上月 中澤 嘉人 三宅 義男 赤尾 忠男
二月 上月 小柳 昌一 山内 文男 赤尾 忠男
三月 上月 宮崎 政二 上木 忠男 赤尾 忠男

計報

- 二月 上月 故高江 文雄氏 十六
二月 上月 故藤田 英次氏 十六
二月 上月 故井上 英次氏 十六

★ 甲慰金報告 (三月五日現在) ★

- 故宮坂正彦氏 甲慰金追加分 磯野 良知
金丸圓也 磯野 良知
累計金六拾貳圓五拾錢也

死亡會員遺族よりの禮狀

- 二月十六日 故鈴木鐵次郎氏 嗣子 鈴木 隆子氏
二月十六日 故副田 好義氏 父 副田好太郎氏

上田 實君を悼む 野口 晃

我が親愛なる友！ 實君よ！ 僕は本日會社に於て、君も知つてある三年間の音楽を共にした學友磯部君より

鐵つあんを偲ぶ 藤井 生

鐵つあんが死んだと言ふたより今讀むばかりだ。あの元氣の鐵つあんが私より先に他界されたのか、どうしてか

君が軍隊に入つて間もなく、聯隊より多くの人の中から選ばれて、深草の前園無線電信講習所に入つた時、僕は君の爲に心から喜んだ。

君の部下思ひも亦著名のものである。身の皮をはいでも部下を世話する心遣は外目にも美しいものがあつた。

新卒業生就職先

養蠶科 (三十三名)

- 秋山 幸夫 長野縣小縣郡中田公民學校
伊藤 光男 長野縣小縣郡中田公民學校
足立 三郎 長野縣小縣郡中田公民學校
今井 省三 長野縣小縣郡中田公民學校

絹紡織科 (二十六名)

- 中村 廣 橫須賀海軍工廠機務部
野島 忠義 東京帝國航空研究所發動機部
松野 正 三井物産株式會社

會員動靜 (現三月末日)

- 谷 弘 現職
柳澤 敏彦 現職
大平 敏彦 現職

新任御挨拶

拜啓 時下陽春の候各位益々御清榮の段奉賀候者今本校纖維化學科増設に伴ひ不肖教授を拜命同科に勤務致す事と相成候に就ては微力乍ら職責に全力を盡す覚悟に御座候間何卒宜敷御指導御鞭撻賜度奉懇願候先は乍略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬具

昭和十五年四月 纖維化學科 大平敏彦

○月〇〇日召集解除(勤)山口縣防府市三田尻、福島人絹株式会社
 ○月〇〇日召集解除(勤)廣島縣賀茂郡廣村、廣海軍工廠機務課
 ○月〇〇日召集解除(勤)名古屋市昭和區熱田東町東起、興亞紡績株式會社熱田工場
 ○月〇〇日召集解除(勤)津市外久居町步兵三三聯隊演武場
 ○月〇〇日召集解除(勤)山形縣北村山郡橋岡町、山形縣南檢定所橋岡支所(舊東支會)
 ○月〇〇日召集解除(勤)長野縣小縣郡那賀村秋和(病氣靜養ノタメ當分引籠)
 ○月〇〇日召集解除(勤)東京支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)北支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)南支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)高崎市大橋町一七八、日本人造纖維高崎工場(住)高崎市並坂町三七四、名古屋市東區大津町二丁目、第一工業製菓名古屋營業所
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會
 ○月〇〇日召集解除(勤)西支會

退職御挨拶

謹啓 陽春の候各位益々御清榮の段奉賀候者私儀上田蠶絲專門學校在職中に勤務致す事と相成二月七日赴任候に就ては今後共倍舊の御指導御鞭撻を賜度奉懇願候先は乍略儀御挨拶申述如斯御座候 敬具

昭和十五年二月 廣海軍工廠機關實驗部第五科 西川正夫

農業藥品 化粧品
 純良藥品 寫真材料
 三共農業藥品 スプリン
 東信代理店
 上田市海野町 合資會社 河合商會
 電話(海野事務所)二七五
 電話(河合事務所)八一五

化學藥品 上田市原町
 化學染料 山崎山林堂
 農業藥品 電話九一三

御來田のお土産は……
 みずい 上・のフルーツ
 晒水 梨
 杏羊 黒羊
 信濃そば クルミ 羊羹
 米煎餅 果物類 結

御宴會に 御會食に
レストラン 香青軒
 明かな洋室 落付いた
 和室 (數室)
 上田市袋町 電話13番

上.飯島商店
 上田市松尾町
 電話(長)二二六〇
 電話(販賣部)三五四〇

信濃路の旅に！
 善光寺詣りに！
 母校訪問の折に！

清流千曲川畔
戸倉温泉
 千曲會指定旅館
笹屋ホテル
 電話(戸倉) 一〇三番(別館) 一〇四番(別荘) 一〇七番
 東京出張所 下谷(83) 六六四五番

御入信の節は
 何卒御光來を！

上山田温泉
 千曲會指定旅館
清風園
 電話(上山田代表) 五六番
 電話(上山田) 一六番
 電話(戸倉) 一四番
 別館電話(上山田) 一四番

御静養には
 感じの好い別荘を

千曲會指定旅館
柏屋別荘
 電話 一三番

別所温泉
 千曲會指定旅館
花屋ホテル
 電話 三一三番

茶代廢止

信州戸倉温泉
上田館
 電話 戸倉 二七番

信州上山田温泉
圓山莊
 家庭風呂
 浴室付貸別荘
 電話(上山田) 一〇九番
 電話(戸倉) 七五番

千曲會指定旅館
千曲時報編輯部
 小松 忠一郎
 町田 博

編輯室より

△四月に入つてから春雨が突然雪に變つたりして驚いたが、それでも暖かさは一段と加はつた。遙か猫岳、四阿山に雪が名残りを止めてゐる。

△櫻も後十日も経てば咲きませうか？ 學生生活の思ひ出の中の常田池、眞田城址は殊に花の時期のものであらう。

△人的資源拂底の折、行く者も送る者も力強く又一〇〇名近くの産業戦士を社會に進出させて學校もホットした。申込全部に應じ切れないことは、残念であつた。

△愈々纖維化學科が店開きをした。漸次教室や實驗室を建てのだらうが暫くは辛稼か。方針通りにみつちり仕込んで送り出すのも遅くはない。

△新學期だ。校内凡てが新しい生々とした感じである。眞實に眞實剛健で而かも新らしく、進歩的であるにはお互に考ふべきこと、爲すべき事が多いと思ふ。

優良蠶種案内

◎昭和十五年産春蠶種

×分離白一號 絲質特優
 浙 華 江 仙 絲量最多
 ×龍 華 江 仙 太並ニ細兩種

◎優良品種……適地分場

廣島縣御調郡奥村綾目八七六
 蠶種業 小川 保
 電話(市村局十一番) 乙蠶種部

◎電報市村局別使配達料不要